

1. 評価結果概要表

作成日 2007年6月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1292100011
法人名	有限会社ウェルフェア
事業所名	グループホーム秋津
所在地	千葉県習志野市秋津4-6-7 (電話) 047-454-7860

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年6月19日	評価確定日	8月8日

【情報提供票より】(19年5月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年5月1日(平成18年4月1日に法人変更)		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	専任 8人, 兼務1人, 非常勤1人, 常勤換算4.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,000円 ~ 78,000円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 500,000円	有りの場合 償却の有無	有(期間:償却分15万円:30ヶ月にて)	
食材料費	朝食	250 円	昼食	700 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月28日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.9 歳	最低	79 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	津田沼中央総合病院 谷津パーク診療所 小林歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京葉線の新習志野から徒歩15分の静かな住宅街にあり、近くには児童公園、谷津干潟、運動公園、香澄公園など、緑多い環境に恵まれたところに位置している。民家改造型のグループホームである。住居は、玄関を入ると吹き抜けになっており、ホールなどの共有部分、入居者の居室も十分換気が行き届く作りになっている。昨年4月にホームエレベーターを設置しており、入居者の安全面の配慮には特に気を使っている。入居者のそれぞれの心身の状況に合わせた生活を維持することを目標に職員が一丸となって前向きに取り組んでおり、地域の人々に認知症の理解を深める活動も積極的に進めているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	駐車場から玄関へのアプローチの段差が、入居者の転倒につながる危険性を指摘されていたが、必要時差解消のための板などの補助具を使用し、入居者の安全への対策を講じている。民家改造型であるため、すぐに対応はできないが入居者の状況とも併せ将来的には一層のバリアフリー化を検討をしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	法人代表、管理者、職員一同は、入居者が普通に生活を維持していくのに必要な専門知識の習得やケアの改善を目指すために、自己評価、外部評価は必要不可欠と理解し、またその結果を活用している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	概ね3ヶ月ごとに、同法人の別ホームと合同で開催している。最近の開催は2007年4月である。メインテーマとして「地域で認知症の方を支援するにあたり、私たちができることは何か」について話し合い、秋津地区での認知症サポーター育成に協力を惜しまない旨、地域にアピールした。秋津小学校の教職員、町内会に向けて、認知症がどのような病気で、どのような支援が必要であるか啓発活動を行っていく計画である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	入居時の個人記録、家族面談時の気づき、希望、意見は、介護計画に反映させている。ホームでの生活はサービス提供表に食事、水分摂取量、排泄、入浴、活動状況、体温、脈拍、健康チェック、行事などの日々の経過がわかる記録があり、そのサービス提供表のコピー、金銭出納帳・領収書のコピー、さらに個人別の暮らしや変化を綴った写真つき新聞等を家族に毎月送り、連絡を密にとっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との連携について、積極的に進めることを考えており、今年度は「認知症サポーター」育成についての活動を計画している。現時点では施設長が中心になって、自治会や町内の行事に参加しており、運動会の設営準備などには職員が協力している。ホームへの来訪者を増やすことなども含めて基盤づくりに励んでいる。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム開設5年目となり、地域の中に認知症に対する理解を深めていくためには地域の協力とネットワークを広げていくことが重要課題であると認識しており、『その人が生活するすべての環境』という理念の実践に向けて努力している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングに『私たちの理念』実践版がわかりやすい言葉で掲示してある。職員は入居者との関係作りに思いやりとあたたかな態度で取り組んでおり、穏やかな空気がホームにあった。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設長が中心となり、地域の小学校、町内会の行事に参加して地域の人々と交流を持ち、また認知症の理解のために啓発活動を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は、いかに入居者個々の認知症の段階に応じた普通の生活を通して、生活機能を維持していくことであると、管理者、職員は考えており、その実践に向けて評価を位置づけている。また他施設の状況を学びたいという積極的な姿勢も見受けられた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は約3ヶ月に1回開催されている。地域の小学校の子供たちとの交流を掲げたが、学校側の事情で交流が困難なこともあったと報告された。最初に教職員に認知症について理解を深めてもらうことが先決であると認識し、地域全般での「認知症サポーター」育成にどう取り組むかについて検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	習志野市の担当課には1ヶ月に1回現状の報告をし、情報交換している。秋津の地域包括支援センターで開催される「地域ケア会議」に参加して介護関係の事業者とサービス向上のためのテーマについて話し合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常生活(食事、水分摂取量、排泄、入浴、活動状況など)、健康状態、行事などの日々の状況が記載されたサービス提供表のコピー、金銭出納帳と領収書のコピー、入居者の暮らしぶりを伝える写真つきの個人新聞を毎月家族に送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や家族面談のときは、意見や不満等について積極的に聞くように努めている。情報は引継ぎノートで共有している。ケアに関する意見は、介護計画書に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、入居者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1年間の職員交代は6回あった。人材の確保には困難を感じている。会社内の人事異動は、入居者とスタッフの関係が損なわれないよう慎重に行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全国グループホーム協会の研修には積極的に職員を参加させている。事業所内の研修として、月1回施設長が中心となり、認知症についてレクチャーしている。認知症のケアについては、認知症ケア学会の認知症ケア専門士が2名おり、ほかに今年受験する職員もいて、積極的な育成を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員ともに認知症の専門職との交流を図り、情報交換するとともに、質の向上のために他のグループホームや他の介護関係事業者との勉強会を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の入居者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者本人が徐々にホームに馴染むための工夫として、体験入居をすることが出来る。入居してからも、ホームの雰囲気に馴染めるよう、職員がこまめに気を配っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者に、生活の知恵や戦争体験などを聞き、多くのことを教えられている。入居者個人の希望をなるべくかなえたいと、場面作りにも工夫をしている。職員との関わりの中で、笑いなどの感情が多く表出できるよう、関係作りに努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、センター方式アセスメントシートを家族に記入してもらっている。また、他のアセスメント様式、ホーム独自のアセスメントシート、申し送りノートなどに入居者情報が記入されているが、情報が一本化されておらず、見づらさを感じられる。		家族記入のアセスメントシートと職員記載の入居者情報を、見やすく整理することが期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる入居者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族が記入したセンター方式アセスメントシートを元に、入居者、家族の希望を踏まえながら、ケアプランを作成している。モニタリングは3ヶ月に1回実施している。入居者個々の目標の達成度がわかるような書式作りを検討している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期目標は、具体的で達成しやすいものにするよう考慮している。入居者に達成感を味わってもらい、次の目標に繋げるようにしている。入居者の状況に変化があれば随時計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症高齢者を在宅で介護する地域住民の相談場所となっている。興奮した状態の認知症高齢者の家族から電話がかかり、手助けに行くこともある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の谷津パーク診療所の内科医師が、2週間に一度、訪問診療に訪れている。それ以外の病院へ掛かる場合は、家族対応でお願いしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	提携の医師と協力し、ホームでターミナルケアを行っている。過去に3名の看取りを行った。事前に家族と延命についての話し合いをしておき、終末期も自然にホームで過ごせるよう職員は気を配っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	グループホームは集団生活であるため、プライバシーの配慮には十分に気を配っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要介護度が高くなってきているため、個々の希望に応じて自由に過ごすということは少なくなっているが、入居者それぞれのペースを尊重し、一日を快適に過ごしてもらえるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、盛り付け、後片付けなどを、職員と入居者で行い、楽しんで食事が出来るよう、雰囲気作りに努めている。メニューは入居者と共に考え、買い物に出かけることもある。今後は更に、メニュー作りと買い物の機会を増やしていくことを検討している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来る限り、入居者の入りたいときにお風呂に入れるようにしている。		脱衣所と浴室の境に段差があるため、その解消を検討中である。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	皆で調理の手伝いをしたり、旅行に出かけたり、行事を行ったりと、さまざまな楽しみごとがある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に行きたそうなそぶりが見られれば、出来る限り職員が散歩に付き添うようにしている。日課として半強制的に散歩させたり、体操させるようなことはしない方針である。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のため施錠するが、日中は玄関に鍵をかけていない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下、定期的に避難訓練を実施している。ホーム内に避難経路も掲示されている。しかしながら、地域との協力体制作りはこれからである。		運営推進会議等を通じ、災害時における地域との協力体制作りを行っていくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々に合わせ、それぞれが満足感を得られるよう、量や好みに配慮している。摂取量は必要に応じて記録を取っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、入居者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改造型のホームのため、まさに家庭的な雰囲気的空間となっている。窓は開け放されて気持ちよく風が通り、明るさも十分である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、それぞれ馴染みの家具や写真、飾りなどを持ち込み、居心地の良い部屋作りがなされている。		